



史蹟史料部

2023年1月3日

#19

日本人墓地公園

ニュースレター

釋種楳仙和尚（しゃくしゅ ばいせんおしょう）

日本人墓地公園の門を歩いて左手に、[ニュースレター#1](#)でご紹介した「[ひのもと地蔵尊](#)」が並んでいます。その奥に、この墓地に草庵を結んだ釋種楳仙和尚の墓があります。

釋種楳仙和尚は曹洞宗の僧侶で、兵庫県に生まれました。1893（明治27年）、インドの釈迦生誕の地に詣るためシンガポールを訪れた折、当地の日本人より懇願され、留まることを決意、この墓地に草庵を結びました。日本人に仏の教えを説くとともに、一人で托鉢し浄財を集め、この地に眠る日本人のために

1911（明治44）年、西有寺（現在の御堂の前身）を建立しました。

[ニュースレター#8](#)でご紹介した二木多賀治郎の墓の近くにある「日本共同墓地記念碑」の碑文は、楳仙和尚によるものです。清貧に身を置き、困苦に耐えながら仏道に徹した生涯を過ごしたと言われています。

御堂の開堂式は没年の前年で、当時の永平寺の貫主（かんしゅ）日置黙仙禅師（ひおきもくせんぜんし）によって行われました。

1912（明治45）年、[ニュースレター#14](#)でご紹介した中野光三の医院で入寂しました。

出典：墓地設置サインボード

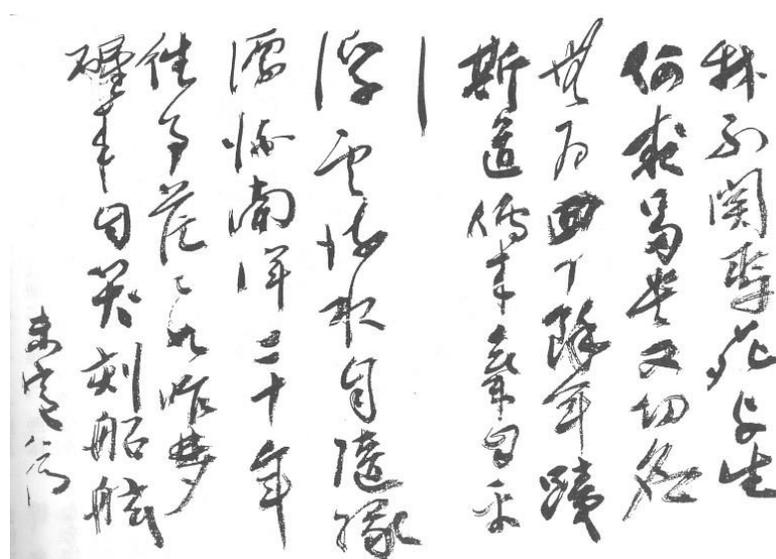
「シンガポール日本人墓地公園・写真と記録 改訂版」
シンガポール日本人会 史蹟史料部 1993年改訂版発行



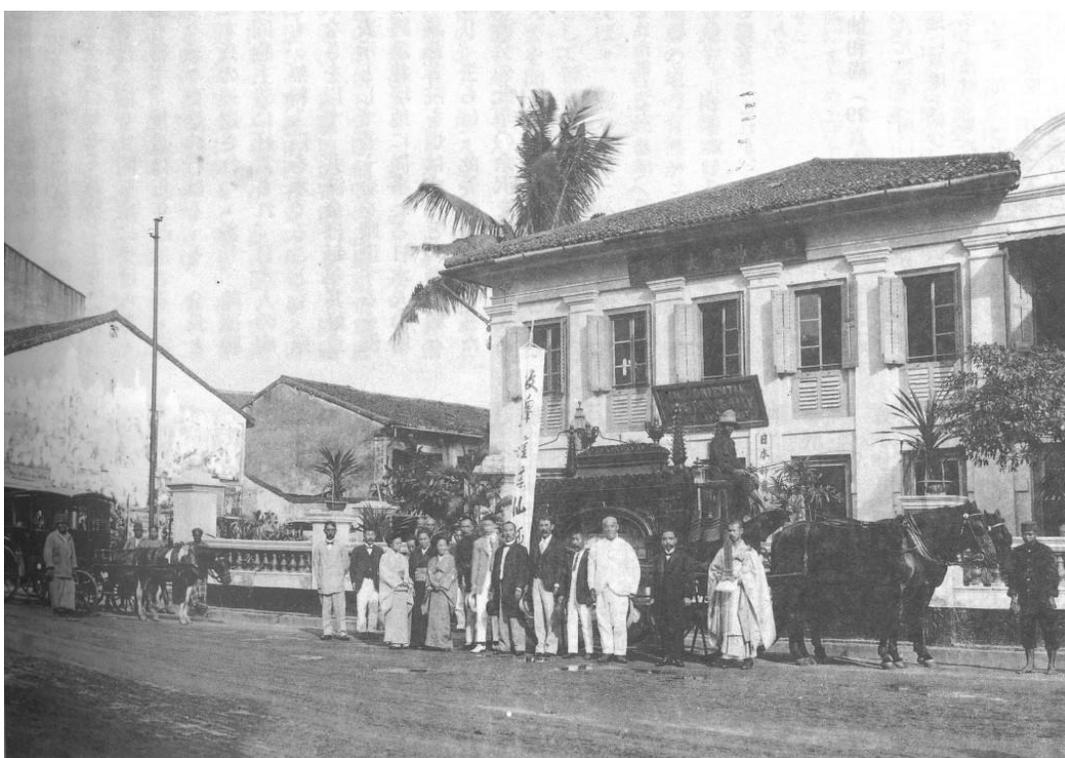
釋種椽仙和尚の墓



日本共同墓地記念碑



自筆の遺喝



中野医院より椽仙和尚の出棺の様子



釋種椽仙和尚